第3回 福井市都市計画マスタープラン等策定委員会 議事録(要旨)

日　時 ： 令和6年1月17日(木) 9:00～10:20
会　場 ： 福井市 別館5階 大講堂
出席者 ： 別紙のとおり
事務局 ： 福井市都市戦略部都市計画課

【議事内容】

〇事務局

＜(1) 都市づくりの課題と対応について説明＞

〇委員

「③『住みたい、住みつづけたい』安全・安心で個性豊かな地域づくり」について、災害が増えていく中で、地域の活力をまちづくりの中に活かしていくことが非常に効率的になっていくのではないかと思う。

その一環として、地区防災計画をこの③の中に一つのキーワードとして入れてもいいのではないか。

〇事務局

検討させていただきたい。

〇委員

課題⑥について、デジタル技術の活用が持続可能な地域社会の実現ということだけに掛っているが、デジタル技術の活用は、課題①～⑤までのいろんなものに関わり、それを助けることができるようになるものである。

デジタル技術を使うことで、この①～⑤の課題を解決できるような、そういうニュアンスにした方がいいのではないかと感じた。今のままだと持続可能な部分だけに掛っているように見える。

〇事務局

資料で言うと4ページの課題を解決する視点でそういう部分については書いているが、さらにそれが伝わるような形での記載も検討していきたい。

〇委員長

手段と目標をうまく整理するのもなかなか難しいというのは感じるし、デジタル技術も当然、全部にかかってくるものだと思う。また現行計画では、市民参加が全部にかかってくる課

題として挙げられていたが、市民参加は当たり前の時代になってきたということもあって、ここでは柱としては謳っていないということかなと思う。

〇委員

私は子どもの視点ということで関わらせてもらっているが、課題①の中心市街地でのにぎわいというところで、もちろん子どもたちにも来て欲しいのだろうと思うが、やはりそこでも、課題③に繋がるような安心とか安全とか、そういうところがきちんと両立するような取り組みも計画に入れてくれるといいと感じた。

〇委員長

防犯というか、秩序ある社会であるとか、或いは子どものあり方、生活の仕方であるとか、そういったところも大事な視点だと思うが、この辺はいかがか。

〇事務局

「②中心市街地のさらなるにぎわいと交流の創出」ということで、非常に大きく書かせてもらっている中で、おっしゃっていただいたような細かい視点も、どこまで施策の中に取り入れていけるかというところではあるが、検討させていただきたいと思う。

〇委員

課題①に、「地域活力が低下し、自治会など地縁団体が十分に機能しなくなる」と書いてあるが、これは喫緊の問題で、進むのが早いのではないかと思っている。団体の力も弱くなってくるし、自治会加入も少ないということなので、そういう団結のような部分は、やはり行政の力が必要ではないかと思うので、一つ何か言葉を選んで入れていただけると。

〇委員長

今回の地震で、地域力の大事さが本当に分かった。地域力というのは、住民の方に委ねるのではなくて、日頃のマネジメントとか、計画の在り方とか、或いは施設の在り方とか、そういったところが大事だと感じている。

課題③に近いが、要するにコミュニティとか地域力が防災に繋がっていくという視点だと思う。そのための施策なども入れ込んでいくということは良いと思うが、いかがか。

〇事務局

今回の地震のこともあり、少子高齢化が進んでいく中でそういうようなものも非常に重要になってきているというところもあるので、記載の方をまた検討させていただきたい。

〇事務局

＜（2）都市づくりの目標について説明＞

〇委員

この「交流」というものに、もちろん世代間の（交流）ということが、含まれているという意味合いだと思うが、未来を見据えてということであれば、敢えてそこを出すというのも一つではないか。

子どもを見るときに、子どもはまだ分かっていないから等のバイアスが掛かってしまったりするので、こういう理念の中で世代間交流等を敢えて打ち出していった方が、より分かり易く、大事なのでは無いかと思う。

〇事務局

現状の文章で言うと、「すべての人が、次の世代も暮らしの楽しさを実感できる都市を育んでいく」というような形で書いている。その上で、全体を含めて記載を検討していきたいと思っている。

〇委員

「居心地がよく歩きたくなるまち」の創出という文言があるが、具体的に考えているイメージがあれば、教えていただきたい。また、先ほどの課題と対応の②のキーワードに、「ウォーカブルなまちづくり」という言葉があるが、こことつながっているという理解でよいか。

あと『暮らしの楽しさを実感できる 「歩いてつながる」まち』という文章の、「歩いてつながる」を前に持ってきたらどうかという質問について、人によって感じ方は違うと思うが、『暮らしの楽しさを実感できる 「歩いてつながる」まち』という文言は、個人的には良いと思う。

〇事務局

「居心地がよく歩きたくなるまち」と「ウォーカブルなまちづくり」は、非常に通じる部分があると考えている。

現在やっていることで言うと、例えば道路上で「ふくみち」の取り組みなどをやらせていただいている。具体的にどういうふうな取り組みを記載していくかについては、今後またこちらにもお諮りさせていただいて、あと各関係課とも協議しつつ、検討していきたい。

〇委員長

この理念について、私も良いのではないか思う。

前回は「歩きたくなるまち」ということだったが、今回は「歩いてつながる」に変えている。「つながる」に色んな意味があり、もちろん公共交通で中心部と地域がつながっていくというのもあるし、人と人とがつながっていくとか、交流とか、そういったものを含めて、「つながる」というキーワードを入れたということである。

歩きたくなるまちというのは、やはり先程のウォーカブルシティということだと思うが、居心地が良いとか、歩きたくなるような魅力のあるまちというものがあったと思うが、それが「つながる」に変わって、その代わり、暮らしの楽しさということで、歩きたくなるような楽しいまちというのも少し、ここに入っているのかなという気がする。

そういうことで、このような表現になっているが、この辺についてはいかがか。

〇委員

「歩いてつながる」と「歩きつながる」では多分ニュアンスがちょっと違う。「歩いてつながる」だと「歩くことでつながる」ニュアンスになっている。「歩きつながる」だと、ウォークアンドコネクトという感じのニュアンスになるかと思う。単に表現上どうかというよりは理念の中身に関わる部分も少しあると思う。

先ほどおっしゃっていた世代間で繋がるとか、そういう物理的な距離を測ってのニュアンスだと、実は「歩いてつながる」だと「歩く」ことが従属的な感じがあるのでちょっと違う。とは言え、表現としては、「歩いてつながる」の方が、据わりがよく聞き取りやすいのは間違いないと思う。

その場合に、この「歩いて」というところを、物理的に距離を移動するという意味だけではなくて、例えば「人生を歩く」とかそういうふうなニュアンスを込めた意味で使っていけば、世代間の交流とか、そういうものも、包含されてくると思う。

その場合に、「歩いて」を、ウォーカブルの「ウォーク」だけでなくて、先ほど言ったような色々なニュアンスがあるというのを他の文章のところでもう少し工夫して表現していくのも一つだと思う。

〇委員長

その通りだと思うが、いかがか。

〇委員

「つながる」というところが、大きくて意味のあるキーワードとして今回出たので、それとこの「歩く」とをどういうふうに接続するかということである。

〇事務局

この「歩く」と「つながる」をどうつなぐかというところを、非常に私達も考えているところであり、今いただいたようなご意見を他にもいただければと思っている。

〇委員長

理念としてはこういう感じでよいか。

「歩いてつながる」を最初に持ってきたらどうだというご提案もあったが、「歩いてつながる

暮らしの楽しさを実感できるまち」とすると先ほどおっしゃっていたようなことになってしまうか。

〇委員

「歩いて」というと、「ウォーク」という意味で捉えてしまう。歩くと、いろんなことにつながっていくというような「未来」を思うような言葉が欲しいと思うので、考えてもらえると。

〇委員

市民が主体的に、ということを考えると、「歩き」の方が、「自ら歩く」という言葉のニュアンスが個人的には感じられる。「歩いてつながる」ほうがリズム的にいいが、私としては「歩き」もいいなというふうに感じた。

〇委員長

他に何かご意見はあるか。言葉の問題で、人によりだいぶん違い、難しいと思う。

「歩いて」の方が語呂は良く、言いやすい感じはする。意味から言うと、「歩きつながる」という気がするので、どちらがいいか悩ましいところである。

事務局はいかがか。

〇事務局

本当にいろいろなご意見をいただいているので、どのようにするのか再検討させいただきたい。

〇委員長

理念の中身としては良いという事なので、文言の話かと思う。

あとは将来都市像について、「自然環境との共生・調和を基本とした水と緑あふれる都市」、「地域を支える拠点のネットワークにより暮らしを結ぶ都市」ということで、どちらかというと空間的なことになっているのかなと思う。

ここまでデジタルや、コミュニティなどを6つの課題に挙げているが、この将来像では、それを実現していくための、全体としては自然環境があって、水と緑あふれる美しく環境のよい都市であり、その中で、中心市街地をはじめとした拠点が、都市機能がそろっていて、魅力があって、歩いて楽しくて、充実していて、防災的にも強いというようなものにしていくと、それを公共交通など交通網でつないでいく都市の形が良いという意味だと思う。

これについてはいかがか。

問題はないと思うが、例えば地域拠点というのは、やはり色んな役割があり、今回の震災で言うと拠点の役割というのは、二次避難する場所という役割もあるのかなと感じる。例えば美山の拠点は、まちとしては買い物する場所があまり多くないが、災害が起きたときは集落のた

めの拠点になってくるだろうという気はする。いろんな意味が込められていると思うので、そういうものも包括して、拠点を作ってネットワークしていくことになっていると思う。コンパクトシティの一つの形ということもご理解いただければと思うが、いかがか。

それと、暮らしの楽しさを支える4つの視点とある。活力、生活、交流、潤い、これが先ほどの6つの課題、これもまとめて、活力ある、生活の豊かな、生活空間、交流、潤い、そういうふうにまとめているということだと思うが、これもうまくまとめられているのではないかなと思う。

〇委員

「将来都市像」の中の「地域を支える拠点のネットワークの暮らしを結ぶ都市」と、「都市づくりの理念」との関係で言うと、この「つながる」と「結ぶ」をどう使い分けているのか。どちらも、少しニュアンスが違うが重要なキーワードのように思う。

〇事務局

言葉としての使い分けについて、「結ぶ」の方がより概念として、より大きいようなイメージかなと思っており、将来都市像というところで言うと、繋がり方としてはより大きいようなところ、交通だけではなく、情報、人、物流というようなところをも含めたという形で、「結ぶ」という形でイメージしている。

〇委員

「将来都市像」と「都市づくりの理念」の方で、「つながる」と「結ぶ」が出てきているので、ここを整理されるのも一つの手かなという気もした。

例えば、資料2の左側ページは「つながる」をキーワードでストックしていて、右側は「結ぶ」というのがかなり重要なキーワードとして出ている。なので、「将来都市像」と「都市づくりの理念」との関係性を考えてこれがリンクしている方がもちろん望ましいように思う。事務局の「結ぶ」のニュアンスの方がより包括的な、というのはよく分かるので、そのリンクが分かるように、右側の方に「つながる」と「結ぶ」の関係を示せるようにするか、或いは左側の「都市づくりの理念」の下の説明のところで、「結ぶ」という言葉と「つながる」という関係が、分かるようにするか。そういう工夫をされるのも一つの手かなという気がした。

〇委員長

今回、大きな目標なのでなかなか良い悪いっていうのは評価しづらいものだと思うが、私個人的に言わせてもらうと、うまくまとめたなという感じはする。人口減少社会に向けて、関連していくような施策を束ねたということ、新しいデジタル技術を入れたということだと思っている。

次回、施策が具体的に出てくると思うが、皆様に議論していただき、これを目標達成するような施策なのだろうかというところがポイントだと思う。それを、次回諮って参りたいと思う。

それからデジタル技術というのは、日進月歩なことでデジタル技術が全ての支援ができるかというと、そういう段階ではない。しかしそれに向けて進めていくことも大事なので、そういった意味で、目標立てとして１つ挙げているということだと思う。
あとは都市構造については、全体的には緑豊かな都市を目指すが、一方で人の住む都市機能を集約させて広域交通で結んで、コンパクトなまちを形成していくというような、都市づくりの目標都市像を掲げているということである。
目標・文言の修正はあるが、全体的には良い計画になっているのかなと思っているので、次回、具体的な施策でご議論いただければなと思っている。
それでは、本日の議事を終了したい。
次回は、課題と対応や都市づくりの主要課題を踏まえて、目標の推進方針を含めた都市計画マスタープランの全体構想についてご意見をいただきたいと思う。

〇事務局

本日いただいたご意見は、関係課と十分協議しながら、今後の策定の作業の方に入っていきたいと思う。
次回の委員会は、当初、令和5年度（本年度内）の開催を予定していたが、現在上位計画が改定に向けて作業中であり、そちらとの整合確認に時間を要することから4月ごろの開催を考えている。